

# 平成27年度 学校経営計画書及び学校評価計画書

石川県立飯田高等学校

学校長 三嶋 達也

## 1 教育目標

真理を探究し、高い知性と豊かな心を養い、積極・進取の精神をもった明朗快活で実践力のある誠実な人間を育成する。

## 2 中長期的目標

### (1) 学校の現状

- ① 文武両道を校是として推し進め、教育目標に掲げる人材の育成を目指して教育活動を行っている。
- ② 過疎化・少子化の進展により、生徒が一層多様化している。生徒の多様な意識や能力に応じた学習指導と進路指導が求められている。
- ③ 普通科と総合学科併置の特性を踏まえ、生徒の多様なニーズに応える指導・支援体制の構築が求められている。
- ④ 部活動を通して礼儀や規範意識の向上を図り、ボランティア活動や地域行事への積極参加を通じて、地域に密着した学校作りを推進している。
- ⑤ 地元の中学校と連携を取り、中高接続を意識した英語の学習指導の在り方を追求する取組を進めている。

### (2) 生徒に関する中長期的目標

- ① 学びに対する意欲と身構えを自ら整え、キャリア・アップを図り、自分の将来に対して志の持てる基盤を築く。
- ② 基礎・基本となる知識や技能の習得を基に、自らの未来を拓く素地となる思考力・判断力・表現力を身に付ける。
- ③ 礼儀正しく、互いの個性や能力を尊重し合い、故郷に誇りと愛着を持てるグローバルな人材を育成する。

### (3) 教職員、学校組織等の望ましい在り方

- ① 各課、学年、教科間の連携を密接に取り、組織体としての教育力を高める。
- ② 教員一人一人が経営参画意識を持って業務を進め、主任層が積極的に指導・助言や提案を行う。
- ③ 学習指導、部活動や学校行事等において生徒と強く係わりとともに、生徒の支援者として自らの総合的指導力を高める。
- ④ 学校公開や外部に対する適切な情報提供を行い、地域の特性を活用した取組を積極的に進める。

## 3 今年度の重点目標

- (1) 生徒の多様な進路希望に応える学力養成
- (2) 生徒の多様な意識や生活習慣を踏まえた規範意識の育成
- (3) 普通科、総合学科それぞれの特長を生かした教育活動の推進と生徒のキャリア・アップ
- (4) 地域に密着した、地域から信頼される学校づくりの推進

平成27年度 石川県立飯田高等学校学校評価計画書（最終評価）

| 重点目標                    | 具体的取組   | 実現状況の達成度判断基準  | 集計結果   | 最終評価                  | 成果と次年度の改善策  |
|-------------------------|---|---|--|-----------------------|---|
| 1 生徒の多様な進路希望に応える学力養成    | ① 教員の指導力改善と生徒の進路意識の向上を図る。   | 各学年で偏差値60以上の層の人数が増加した教科数が<br>A 3教科<br>B 2教科<br>C 1教科<br>D 増加なし  | 7月進研模試と1月進研模試を比較。1年生は英語9→12、数学10→31、国語12→17と3教科すべてで偏差値60以上人数が増加。2年生は英語4→11、数学13→8、国語14→17と2教科で増加した。          | 1年A<br>2年B<br>【進路指導課】 | 1年、2年は英数国の土台を固める重要な時期である。上位者の変化を見ることで、全体の動向をも類推することができる。3年間を視野に、各ステージでの指導の重点について共通理解を持っていきたい。   |
|                         | ② 難関大入試問題解法研究や外部模試結果の分析と対策により教科指導力を強化し、生徒の学力向上を図る。  | 国公立大40人の合格目標値を<br>A 達成した<br>B 9割達成した<br>C 8割達成した<br>D 8割未満だった   | 「国公立40」の目標値に対して、「国公立33」と下回る結果である。国公立合格目標の達成率は82.5%であった。  | C<br>【進路指導課】          | 入学者学力に年度差が大きい現状はあるが、生徒の三年間を見越した飯高の指導に改善の余地がある。今年度結果を真摯に分析し、三年間の指導時期、指導重点について全体の共通認識を持ち、「組織的な対応」を今後検討する。   |
|                         | ③ 自立的学習習慣を定着させ、進路実現可能な学力を身につけさせる。   | 平日休日の各学年の学習時間が基準に達した者の割合が、<br>A 8割を超えている<br>B 6割を超えている<br>C 4割を超えている<br>D 4割以下である                               | 年間を通して隔月で調査を実施してきた。時期によって上下動がある。最終の3月調査で基準値に達した割合は1年平日18%、休日32%、2年平日29%、休日40%であった。                           | D<br>【進路指導課】          | 学年+1時間の学習時間を推奨している。1,2年ともに学習時間増加への取組意志は高い。生徒の学習習慣をはかる指標として、次年度は達成度判断基準を見直す必要がある。  |
|                         | ④ 幅広い知識と、情報処理能力を身につけ、公務員試験に対応できる力を育成する。   | 公務員試験直前の模擬試験においてBランク以上の生徒の割合が<br>A 80%以上 B 60%以上<br>C 40%以上 D 40%未満   | 公務員模擬試験受験者は、14名であり、そのうちの4名が、総合成績判定でBランクと判定された。達成率は29%にとどまった。   | D<br>【進路指導課】          | Cランクの生徒が9名おり、最後の底上げができなかった。自然科学・判断推理・数的推理の分野で弱点を持つ生徒が多く見られた。次年度は授業担当者、補習担当者と事前に早期に学力分析を行い指導したい。   |
|                         | ⑤ いしかわ探究スキル育成プロジェクトでの研究・実践の成果を学校に還元し教育力を高める。  | 探究的な学習活動を取り入れた授業を<br>ア 複数回実施した<br>イ 1回実施した<br>ウ 実施できなかった<br>アイと回答する教員の割合が<br>A 90%以上 B 75%以上<br>C 50%以上 D 50%未満 | 教員対象のアンケート結果は、<br>ア 50% イ 26% ウ 24%<br>であった。アとイの合計が76%であった。ウと理由として、受験対応で余裕がなかった、探究活動よりも教師の説明を優先させた、などがあげられる。 | B<br>【教務課】            | 大学教授を招いての講演等も取り入れ、教員の意識改革に努めた。一部を除き、教員の中での探究的な学習活動を取り入れた授業に対する意識は確実に高まっている。互見授業も推奨したがあまり普及せず、必要性は実感できても実践につなげる意識がまだまだ低い。急激な導入は破綻を招くので、次年度も引き続き継続実施する。 |
| 学校関係者評価委員の評価            | <ul style="list-style-type: none"> <li>模試結果を評価の指標にするのも良いが、もっと先生方の頑張りが評価できるように、生徒個々の変化(変遷)を評価指標にすることはできないか。</li> <li>大学改革に対応するための対策はどのようになっているのか、高校側の取組の現状について知りたい。</li> <li>教育現場に起こっているダイナミックな状況の変化について、理解しきれない保護者が多いのではないか。もっと情報が欲しい。</li> </ul> |   |  |                       |   |
| 学校関係者評価委員の評価を踏まえた今後の改善策 | <ul style="list-style-type: none"> <li>大学入試改革によって、今後、求められる力がどういうものになるのか等、未だ不確かな状況なので、情報を集めながら対策を検討していきたい。</li> <li>進路に関する情報については今後とも積極的に発信していきたい。</li> </ul>  |   |  |                       |   |

| 重点目標                        | 具体的取組  | 実現状況の達成度判断基準   | 集計結果  | 最終評価                           | 成果と次年度の改善策  |
|-----------------------------|--|--|---|--------------------------------|---|
| 2 生徒の多様な意識や生活習慣を踏まえた規範意識の育成 | ① 携帯電話・スマートフォンの使用ルール遵守と1日の使用時間を削減する指導を勧める。   | ①生徒の自己評価アンケートから日常的に達成できた割合が<br>A 85%以上 B 70%以上<br>C 60%以上 D 60%未満<br>②生徒の使用時間調査から1人あたりの1日平均使用時間が<br>A 30分以内 B 40分以内<br>C 50分以内 D 50分以上 | ①生徒の自己評価アンケートの結果から、守られていると概ね守られている割合が全体 82% であった。<br>1年(80%)2年(86%)3年(79%)<br>②1日の使用時間調査結果から全体50, 5分(1年 65分・2年 51分・3年32 分)であった。 | B<br>【生徒指導】<br><br>D<br>【生徒指導】 | ①前期の調査78%から後期82%となり全体的には利用マナーを守っている結果となっている。1・2年生が前期と比べて伸ばしたのに対して3年生の低下が景響した結果となっている。3年生の進路決定後の指導に注意を要する。<br>②年度当初全体で57分から50分に短縮したが、目標にはほど遠い結果となっている。学年差が大きく進路に対する目的意識の差が利用時間の差となっている。加えて、非常時における有効活用や連絡・広報のツールとしての活用など、ポジティブな面についても検討する。 |
|                             | ② 時間厳守の習慣の確立を目指し、「遅刻0運動」を継続する。   | 「遅刻0の日」が年間合計で<br>A 160日以上 B 150日以上<br>C 140日以上 D 140日未満  | 年間集計の結果<br>遅刻0の日数は162日/195日であった。<br>※昨年度と比較すると6日少ない結果となった。(168日/196日)   | A<br>【生徒指導】                    | 昨年度を下まわる結果となっている。全体的には、5分前登校の傾向が見られたが、一部の生徒で複数回の遅刻する者がいたり、冬季に入り増えたことが原因である。一部の生徒への指導および冬季の生徒への指導を強化していかなければならない。  |
|                             | ③ 「ICP」の取り組みを周知徹底し、毎日の清掃活動を通して全校生徒が全職員と共に積極的な環境美化に努める。   | 生徒の自己評価アンケート(班ごと)から日常の清掃をしっかりとできた割合が<br>A 85%以上 B 70%以上<br>C 60%以上 D 60%未満   | 各クラスの自己評価の平均が85%を超えたクラスが12クラス中3クラスあり、70%を超えたクラスが8クラスあった。学校全体の平均が80.1%であった。(2/5日現在)  | B<br>【保健厚生】                    | 「ICP」の取り組みにより、生徒の環境美化に対する意識がやや向上してきた。評価には清掃の担当場所により差が見られる。来年度は採点の正確化、カード記入の徹底を促し、さらに学習環境にふさわしい校内美化の促進に努めたい。   |
|                             | ④ 挨拶や服装・交通マナーなど基本的な生活習慣の定着について指導を徹底する。   | 生徒の自己評価アンケートから日常的に達成できた割合が<br>A 85%以上 B 70%以上<br>C 60%以上 D 60%未満   | 生徒の自己評価アンケートの結果から、十分身につけていると概ね身につけている割合が全体94 %であった。<br>※ 1年生(96%)2年生(94%)3年生(92%)   | A<br>【生徒指導】                    | 全体的には基本的な生活習慣が身に付いている。朝の登校あいさつ指導・服装検査・街頭指導の結果から見ても概ね良好であるが、頭髪服装に関しては、女子のスカート丈や男子の頭髪など一部で指導を要する生徒がいるので継続して指導をしていく必要がある。  |
| 学校関係者評価委員の評価                | <ul style="list-style-type: none"> <li>・携帯電話・スマートフォンについてはその害が強調されてはいるが、広報のツールとしての活用等、ポジティブな考えはないか。</li> <li>・飯田高校の挨拶のすばらしさに関しては県下でも評判であり、今後とも継続していくことを望む。</li> </ul>             |  |   |                                |   |
| 学校関係者評価委員の評価を踏まえた今後の改善策     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・弊害を除きながら活用する方法がないか、例えば、保護者向けのサイトを設けるなどして情報発信するなど、今後研究したい。</li> <li>・挨拶運動に関しては、全校あげて取り組んでおり、日常の学校生活の中においても浸透しつつある。今後も支援していきたい。</li> </ul> |  |   |                                |   |

| 重点目標                                      | 具体的取組                                  | 実現状況の達成度判断基準   | 集計結果  | 最終評価   | 成果と次年度の改善策  |
|---|--|--|---|--|---|
| 3 普通科、総合学科それぞれの特長を生かした教育活動の推進と生徒のキャリア・アップ | ① 進路希望者及び公務員希望者の進路実現を支援する体制を構築する。(普通科) | <p>年度末進路状況において、</p> <p>A進学希望者の90%以上が進路実現した。</p> <p>B進学希望者の70%以上が進路実現した。</p> <p>C進学希望者の50%以上が進路実現した。</p> <p>D進学希望者の進路実現が50%未満であった。</p> <p>公務員希望者の</p> <p>A50%以上が進路希望を実現した。</p> <p>B40%以上が進路希望を実現した。</p> <p>C30%以上が進路希望を実現した。</p> <p>D30%に満たなかった</p>   | <p>普通科進学希望者は92名である。進路決定先は国立大21、公立大4、私立四大44、私立短大5、専門学校14、その他4であった。その他には再受験生4名が含まれるため、進路実現率は95.6%である。</p> <p>公務員希望者の進路確定率は、9名の内、7名が内定しており、達成率は78パーセントである。</p> | <p>A</p> <p>【進学指導】</p> <p>A</p> <p>【進学指導】</p>                        | <p>学力差の大きい学年であったが、それぞれの進路を確保することができた。一般入試受験者は進路確保したが、再受験を選択した者が4名でた。次年度は100%を目指したい。</p> <p>概ね順調に合格を勝ち取ることができた。但し、受験をあきらめ進路変更した生徒や、1次合格を得ることができなかった生徒もいた。次年度は全員合格できるように支援したい。</p>  |
|   | ② 個に応じた進学指導、公務員指導、就職指導を充実させる(総合学科)     | <p>年度末進路状況において、</p> <p>進学希望者の</p> <p>A90%以上が進路希望を実現した。</p> <p>B70%以上が進路希望を実現した。</p> <p>C55%以上が進路希望を実現した。</p> <p>D55%に満たなかった。</p> <p>公務員希望者の</p> <p>A50%以上が進路希望を実現した。</p> <p>B40%以上が進路希望を実現した。</p> <p>C30%以上が進路希望を実現した。</p> <p>D30%に満たなかった。</p> <p>就職希望者が</p> <p>A 年内に100%内定を得た。</p> <p>B 1月に100%内定を得た。</p> <p>C 2月に100%内定を得た。</p> <p>D 3月以降にずれ込んでしまった。</p> | <p>進学希望者総14名は、私四大5、私短大2、専門学校6、その他1と進学先が確定した。年度末状況は100%の実現率である。</p> <p>公務員希望者の進路確定率は、5名の内、3名が内定しており、達成率は60%である。</p> <p>民間就職希望者は、年内に全員内定を得ることができた。</p>        | <p>A</p> <p>【就職指導】</p> <p>A</p> <p>【就職指導】</p> <p>A</p> <p>【就職指導】</p> | <p>AOや推薦(公募制、指定校)を利用した進学が大半である。推薦基準を満たさない生徒が例年よりも多く見られ、AOを利用することとなった。成績、出欠、行動面での早期からの指導、意識づけが必要である。</p> <p>概ね順調に合格を勝ち取ることができた。但し、1次試験は合格したものの、2次の面接試験等で不合格になった生徒がいた。2次対策も含め、総合力を高める指導をしたい。</p> <p>早期に志望企業を決定し、就職試験対策をとることができた。最初の応募で合格できなかった生徒も、2回目の応募で内定を得ることができた。次年度は、1回目の応募で全員が合格できるように、支援したい。</p> |

| 重点目標                                      | 具体的取組   | 実現状況の達成度判断基準   | 集計結果   | 最終評価       | 成果と次年度の改善策   |
|---|---|--|--|------------|--|
| 3 普通科、総合学科それぞれの特長を生かした教育活動の推進と生徒のキャリア・アップ | ③ 次の検定試験の合格を目指し、学習意欲を高める。<br>・情報技術検定<br>・基礎製図検定<br>・パソコン利用技術検定  | 各種検定の合格率が<br>A 80%以上 B 65%以上<br>C 50%以上 D 50%未満<br>※(合格者数)／(受験者数)                  | パソコン利用技術検定2級(4名／15名)<br>基礎製図検定(13名／17名)<br>情報技術検定3級(17名／17名)   | B<br>【工業科】 | 資格試験全体のスケジュールを見直し、集中して取り組ませるようにしてきた。多様な機会を利用して指導に取り組んできたが、今後、さらに目的意識を持たせるように指導方法を工夫していきたい。                                     |
|   | ④ 国家試験の合格者を増やす。<br>・第二種電気工事士<br>・乙種4類危険物取扱者   | 国家資格の合格率が全体の<br>A 50%以上 B 35%以上<br>C 20%以上 D 20%未満<br>※(合格者数)／(受験者数)               | 第二種電気工事士(6名／17名)<br>乙種4類危険物取扱者(7名／17名)<br>乙種6類危険物取扱者(2名／2名)  | B<br>【工業科】 | 受験時期を見直し、生徒が1つの試験に集中して取り組むようにした。電気工事士は筆記試験が6名と難しく、実技試験ではとりこぼしがないうよう指導した。危険物取扱者試験は近年難化しており、より一層の指導時間数の確保、また動機付けをしていきたい。         |
|   | ⑤ 学習意欲喚起のための方策として、各種検定・資格取得を推進する  | 学年及び系列の目標とする各種検定資格に対する取得率が<br>A 80%以上 B 65%以上<br>C 50%以上 D 50%未満<br>※(合格者数)／(受験者数) | 合格率は全体で55.3%。<br>簿記検定 39/89 (43.8%)<br>情報処理検定 54/125(43.2%)<br>珠算・電卓検定 163/205(79.5%)<br>ビジネス文書検定 166/303(54.8%)<br>商業経済検定 4/42 ( 9.5%)<br>英語検定 50/96 (52.1%)<br>の結果である。 | C<br>【商業科】 | 合格率は昨年度より改善されたが、上位検定合格者が少なかった。次年度は今年度の合格率が低い検定試験に重点を置き、上位級の合格率を上げるために、これまでの傾向や生徒の弱点を分析し、直前の補習対策の充実を図り、合格に向けて生徒の意識を高める指導が必要である。 |
| 学校関係者評価委員の評価                              | <ul style="list-style-type: none"> <li>・進学指導、就職指導共に素晴らしい結果である。先生方の休日返上の指導体制には頭が下がる思いである。</li> <li>・昨年度に比べて工業科の検定合格率が著しく向上している。抜本的な取組の見直しが効を奏しつつあるのか、良い傾向である。</li> </ul> |  |  |            |  |
| 学校関係者評価委員の評価を踏まえた今後の改善策                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度の厳しい指摘に答えるべく、取組を実践してきた結果と受け止めているが、今後とも一層の努力を継続して行きたい。</li> <li>・商業系検定の合格率が低い。生徒の検定取得へのモチベーション向上に対する新たな方策に取り組みたい。</li> </ul>  |  |  |            |  |

| 重点目標                        | 具体的取組  | 実現状況の達成度判断基準   | 集計結果  | 最終評価        | 成果と次年度の改善策   |
|-----------------------------|--|--|---|-------------|--|
| 4 地域に密着した、地域から信頼される学校づくりの推進 | ① 本校が実践する教育活動や学校行事に関する情報発信を積極的に進め、本校に対する地域理解を深める。  | 保護者及び地域代表者に対するアンケートの回答が<br>A: 広報活動を十分に行っている。<br>B: まあまあ行っている。<br>C: あまり行っていない。<br>D: 全く行っていない。                 | 後期アンケートの結果、(括弧内は前期)<br>A評価・・・37.6%(35.2)<br>B評価・・・55.2%(58.6)<br>C評価・・・6.5%(6.0)<br>D評価・・・0.7%(0.2)<br>以上、肯定評価(A・B)が92.8%(93.8)<br>中、最も多かったのがB評価であった。 | B<br>【総務課】  | 中間評価に比べてA評価の割合は上昇したが肯定評価全体としてはマイナス1%という結果であった。今後は、「回覧板」による学校情報の発信だけでなく、新聞やHPでの広報活動をより一層充実させ、本校に対する地域理解につなげていきたい。 |
|                             | ② 保護者懇談会への参加を含め、積極的な学校行事への参加をお願いする。  | 会員数396名のうち、保護者懇談会への参加を含め、学校行事への参加回数が3回以上の割合が<br>A: 80%(317人)以上<br>B: 60%(238人)以上<br>C: 40%(158人)以上<br>D: 40%未満 | 3回以上の保護者数は328名、82.8%であった。1・3年生ではそれぞれ98.7%、81.8%であったが、2年生は68.8%とやや少なかった。   | A<br>【総務課】  | PTA役員だけではなく多くの保護者が学校へ足を運びやすい雰囲気はできていると考えられる。2年生の保護者の参加率がやや少ないことを考えると、2年生独自の保護者参加行事を増やすなどの工夫が必要である。               |
|                             | ③ 地元の小学校高学年・中学校を対象に、理科実験授業を学期に1回行う。  | 実験内容に興味を持ち、自ら理解を深めるための考察や追加実験をしたいと回答する児童・生徒の割合が<br>A: 80%以上 B: 70%以上<br>C: 60%以上 D: 60%未満                      | 6月25日(木)宇出津小5年生40人対象<br>40人中36人(90%)が追加実験をしたいと回答した。2月17日(水)に東陽中学校で2回目を実施し、26人中21(81%)人が追加実験をしたいと回答した。   | A<br>【理科】   | 全体的に、楽しく協力しながら実験に参加していた。理科に興味関心を持つだけでなく、既習事項との関連性を考察したり、応用した実験を工夫したりできるようにしたい。                                   |
|                             | ④ 地域のさまざまな立場の方々に講師を依頼し平時の授業(地域学Ⅰ、産業社会と人間など)を共同して創り上げる。   | 地域の方々に講師に招き、授業をおこなった時間数が、<br>A: 40時間以上<br>B: 30時間以上<br>C: 20時間以上<br>D: 20時間未満                                  | 地域の方を講師にお招きした時間が<br>地域学: 27時間<br>産業社会と人間: 4時間<br>総合的な学習の時間: 3時間<br>社会人基礎: 1時間   | B<br>【総合学科】 | 地域学Ⅰでは地域の各方面から講師をお招きし、地域の教育力を授業に活かすことができた。次年度からは、他の科目でも単発的な取り組みではなく、キャリア教育を見据えた、系統立てた取り組みを行いたい。                  |
| 学校関係者評価委員の評価                | <ul style="list-style-type: none"> <li>・広報活動に関しては数年前に比べて各段の進歩だ。回覧板の取組も市民に受け入れられている。</li> <li>・素晴らしい「学校案内」だ。効果が期待できる。</li> <li>・今後、地域の教育力を活かすという意味でも、「老人会」の活用も考えてみてはどうか。</li> </ul>                                       |  |   |             |  |
| 学校関係者評価委員の評価を踏まえた今後の改善策     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・回覧板による学校情報の発信については、学校評議員・学校関係者評価委員の方々からの提言によって始めた取組であり、市民の方々に受け入れられているならば、こんな喜ばしいことはない。今後とも継続していきたい。</li> <li>・「老人会」との連携に関しては、総合学科の成果発表会等でも、また地域連携の方法としても前向きに考えていきたい。</li> </ul> |  |   |             |  |